

『こども食堂通信』NO.3

発行:公益社団法人北海道社会福祉士会 道央地区支部

子ども食堂訪問記③♪「りんごの巣」編(札幌市豊平区)

(リンゴの巣とは?)

11月16日(木)、月寒公民館(豊平区月寒中央通7丁目)で実施している「りんごの巣」を訪問。

公民館の調理室を使用し、台所スペースも広く、明るい会場でした。豊平区創造学園(高齢者大学)の修了生が主体となって活動しており、スタッフの多さに驚きました。

本日のメニューは、おにぎり(中身は鮭、梅、ツナ、カツオと色々)、具たくさんのお味噌汁、肉じゃが、ナムルにデザート。昆布の佃煮がとても美味しく、「ダシで使った昆布。献立にはないけどね。」

小さいお子さんにおにぎりは食べやすそうでした。食事代は、「お気持ち(寄付)」となっています。

(当日の参加者)

小さなお子さんとその母親(4家族、13名)と子ども食堂の視察(見学者)9名が参加していました。食事を終えると、子どもたちの姿がみえなくなり、隣の部屋から賑やかな声が聞こえてきました。

覗いて見ると、子どもたちが、四つん這いになったお母さんの背中を跳んでいます。

「親子対抗馬跳び大会」が始まりました。子どもたちは必死に跳んでいます。私も、小さい頃遊んだな～と思い出しました。お子さんがたくさんいるお母さんは何回も馬役になるため汗だくです。

りんごの巣では、「食べること」と、子どもたちに伝統的な遊びや小物作りを紹介し、「豊かな心」を育む活動をしています。

(居場所が良い場所)

子どもたちのお母さんが、台所で「何かお手伝いします」とスタッフに。スタッフは「いいの、いいの、ここに来たときくらい何もなくていいの。のんびりしていてね」と、お母さんのように優しくこたえていました。

子育て中のお母さんも、昔は誰かの子供だったはず。りんごの巣は、スタッフの皆さんが人生の大先輩。

お母さん(大人)がほっとできる場を感じました。お母さんの居心地が良い場所は子どもたちにとって心地よい安心な場所。しかし、公民館は月6~7千円の料金がかかり、大きな支出となっています。

(最後に、感想)

「子どもの貧困が月1回の食事提供で解決できるとは思わないが、ここで見たことのある私たちを何かのときに頼りにしてくれたら。私達が解決できないことも、私たちがパイプとなってどなたかにつなげていけたら。そんな思いで取り組んでいます。」

「百聞は一見にしかず」。まだ、訪問を始めて間もないですが、子供たちへの支援から生まれている「子ども食堂」ですが、様々な子ども食堂があり、「子ども食堂」と一括りにできないと感じています。今年も残すところ1ヵ月となりました。道央地区支部では、来年も、子ども食堂を訪問する予定です。来年も引き続きよろしく願いいたします。

